

## 第2次安曇野市観光振興ビジョン 第1回策定検討委員会 議事録

- 1 会議名 第2次安曇野市観光振興ビジョン 第1回策定検討委員会
- 2 日時 令和4年7月14日 午後1時30分から 午後3時30分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 301
- 4 出席者 尻無浜博幸 委員(委員長)、宮田弘康 委員(副委員長)、丸山君恵 委員、加藤進 委員、仙石弘子 委員、衛藤悦郎 委員、小岩井清志 委員、中村梢 委員、白澤勇一 委員、中澤美穂 委員、西山直美 委員、青柳靖決 委員(12名中12名)
- 5 アドバイザー 長野県観光機構 石川淳也、三井猛司
- 6 市側出席者 商工観光スポーツ部 野口部長、観光課 下里課長、高野係長、丸山係長、由井係長、小林係長、黒岩、延本、第一企画株式会社
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 3人 記者 1人
- 9 会議概要作成年月日 令和4年7月22日

### 協議事項等

#### 1 開会(野口部長)

#### 2 市長あいさつ(市長)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の第6波は収束しつつあるが、ここ1週間は増加傾向にあり、今後の拡大を危惧している。しかし、国・県の方針と同様、市としても感染対策と社会経済活動の両立を図っていきたい。
- ・観光業の振興、再興は市にとって重要な課題。コロナ禍によるものも含め、旅行者の志向は数年前から大きく変化し、変化のスピードも加速している。第2次安曇野市観光振興ビジョンの策定にあたっては、委員の皆さまの経験・知見を活かし、安曇野にふさわしい、新しい施策を提言してほしい。
- ・同時並行で策定を進めている「第2次総合計画 基本構想 後期基本計画」との連携も図りながら、新しい安曇野の観光振興に向けてご尽力を賜りたい。

#### 3 委嘱式

- (1) 委嘱書の交付
- (2) 各委員あいさつ

#### 4 委員長及び副委員長の選任

- ・委員長は、松本大学 総合経営学部 学部長 尻無浜委員が選出。
- ・副委員長は、国営アルプスあづみの公園 顧問 宮田委員が選出。

#### 5 議事

## 協議事項等

### (1) 「第2次安曇野市観光振興ビジョン」策定の趣旨、流れについて

・「資料1」に沿い、策定の趣旨・流れについて説明（事務局）

#### ① 位置づけ

市総合計画に基づく観光分野の「個別計画」。市総合計画、関連する諸計画、国内外の情勢、国・県等の方向性を踏まえる。10年間のビジョン・重点プロジェクト、5年間の前期アクションプランを策定する。

#### ② 基本的な方針

前ビジョン理念を継承し、課題・反省（＝実効性の担保）を生かす。世界・本国の情勢・話題（SDGs・アフターコロナ等）を踏まえる。新たな要素や市の主要施策を取り入れる。総合計画との整合性を図る。統計情報に基づく現状と課題の整理・分析、将来像の設定とターゲットングを行う。

#### ③ 策定体制

本委員会で、必要な事項を検討。必要に応じてアドバイザーを招へいする。

#### ④ スケジュール

7～11月まで、月1回の委員会。12月パブリックコメント、1月の委員会で決定後、3月に策定。

・「前期アクションプラン」「重点プロジェクト」について説明（事務局）

実効性を担保するため、「ビジョン」に加え「アクションプラン」を策定するのが、前ビジョンとの大きな違い。現在、アクションプラン策定支援に関連した業務について、観光庁の補助金を活用し、外部委託するためのプロポーザルを実施している。

〈委員〉策定の趣旨に賛成。ぜひ実効性のあるビジョンをつくっていききたい。加えて、① 策定したビジョンをどのように市民・関連事業者に浸透させていくか ② 数値目標等を設定して評価・検証できるようにすること の2点も、ビジョンに盛り込んでもらいたい。

⇒ 〈委員長〉そうした視点も取り入れながら、策定を進めていきたい。

〈委員〉実効性の担保については、観光協会・会員の理解が不可欠。会員への周知のため、本委員会での議論の内容を、会員向けに発行している新聞で公表しても良いか。

⇒ 〈事務局〉会議の内容は公開制となっているため、問題ない。

〈委員〉① 私の選出団体である安曇野市観光振興ビジョン有識者会議での議論を踏まえ、本ビジョンは、特にコロナで打撃を受けた観光事業者にとって“やる気の出る”（＝外貨を稼げて生業として成り立っていける）ものにし、稼ぐための具体的な施策をアクションプランの中に盛り込んでもらいたい。② 事務局から説明のあったプロポーザルについて、特にプロポーザルと重点プロジェクトの関係性について、もう少し説明してほしい。

⇒ 〈事務局〉プロポーザルを行っている外部委託業務の内容は、アクションプラン・重点プロジェクトの策定支援。具体的には来訪者のニーズ調査や統計的な分析などの業務を委託し、本委員会に検討資料を提供することを目的としている。アクションプラン・重点プロジェクト（案）などは本委員会で検討・決定する。

## 協議事項等

〈委員〉委託業務について、予算はどの程度か？

⇒〈事務局〉現在はプロポーザル段階であるため、未定。

〈委員〉市は具体的な観光収益を想定しているか。

⇒〈事務局〉今後の委員会で設定していく。前ビジョンでは「観光経済波及効果」ほか4項目を設定していた。本ビジョンでも、今後の委員会でKGI・KPIの設定を検討する予定。

【結論】(委員長)

- ・ビジョン、アクションプラン(前期5年)、重点プロジェクト(案)は、本委員会で検討・決定する。
- ・外部委託業務については、改めて次回委員会で確認をする。
- ・観光事業者が中心となるのはもちろんだが、前ビジョンの理念を継承し、市民や関連事業者も対象としたビジョン、アクションプランとする。

### (2) アンケート調査結果実施(速報値)の発表及び分析について

・別添資料「市民アンケート調査【速報】」「事業所アンケート調査【速報】」に沿って説明(事務局〈委託事業者〉)

市民アンケートは回収率38.1%、事業者アンケートは回収率36.7%であり、調査としては「有意」とであると判定。

〈委員〉①配布数2000票というのは、サンプルとして少ないのではないか。今後のアンケート調査の実施手段として、広報誌に同封する方法も検討してほしい。②交通網に関する要望が多かったとのことだが、欠けているものに関して具体的に言及できるものはあるか。

⇒〈事務局・委託事業者〉①母集団、サンプル数、回収数より、有意であると判定している。

②今回のアンケートでは、具体的には把握できていない。

〈委員〉市民・市内事業者アンケートではなく、観光客のニーズ調査等が重要ではないか。各委員が議事内容を把握し、資料を読み込んだ上で議論ができるよう、会議資料は1週間前に配布してもらいたい。

〈委員〉アンケートの意見(記述式)では、交通・インフラ、自然・景観に関するものが多かった。アンケートで市民の意見の本質が得られているため、ぜひ本ビジョンに反映させるべき。

〈委員〉アンケートで交通に関するものが多かった点には納得。登山ガイドや宿経営者の視点から、人気である常念岳や蝶ヶ岳の登山口にも、中房線のような交通網の整備(定期便の運行)が必要だと考えている。

〈委員〉JR東日本管内の比較では、GW中、長野県の利用率は高かった。魅力のある地域だと実感している。交通の課題に関しては、イベントに合わせた列車の運行や、イベント会場へのシャトルバスに合わせ臨時列車運行などで、利便性を高めていくことができる。

〈委員〉「だれのため」「いつ」「何を」という点を絞っていけば、ピンポイントで交通の利便性を高めることが可能。「だれ=登山客」とすれば、「いつ=GW・夏休み期間」に、「何を=バス等の増便」で対応できる。観光地のサスティナビリティに交通の利便性向上は不可欠と考えているので、各交通機関の関係者が参加している本委員会で、協力関係を築いていければ良い。

〈委員〉10年のビジョンを考える上では、若い人の意見が反映されていくべき。アンケートでは若

## 協 議 事 項 等

い世代の返答が少ないが、次回の属性分析でどんな考えを持っているかを知りたい。

〈委員〉伝統食体験など、農業を活かした観光振興も検討してほしい。

### 【結論】（委員長）

- ・今回の要望・意見を踏まえ、次回、アンケート分析の説明を行う。

### (3) その他

- ・事務局より次回日程等について連絡。

## 6 閉会

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。